

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																			
東北電子専門学校	昭和51年3月31日	吉田 博志	〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501																																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																			
学校法人日本コンピュータ学園	昭和61年10月22日	持丸 寛一郎	〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501																																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																		
工業	工業専門課程	サイバーセキュリティ科 (旧ネットワークセキュリティ科)	平成22年文部科学省告示第153号	—																																		
学科の目的	ネットワーク、サーバ、セキュリティ、仮想化等のICTインフラの設計から構築までを、実機や仮想環境を使用して学修し実践することで、即戦力として活躍できるネットワークエンジニアを育成する。																																					
認定年月日	平成27年2月25日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験																																
3年	昼間	3,192時間	2,251.5時間	85.5時間	1,795.5時間	0時間																																
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
90人	60人	0人	3人	5人	8人																																	
令和2年度の教育課程編成委員会で、科目が増えている印象	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 定期試験・レポート及び授業に取り組む姿勢をもとに評価</p>																																	
長期休み	■学年始:4月1日～4月6日 ■夏季:7月24日～8月23日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	<p>・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。</p> <p>・年間800時間以上履修していること。</p> <p>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,400時間以上履修していること。</p>																																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 成績不振、長期欠席等の生徒に対し、担任と学生サポート室が連携して、電話、メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問や保護者をえた面談			課外活動	<p>■課外活動の種類 卒業制作展、仙台まち美化サポート</p> <p>■サークル活動: 有</p>																																	
就職等の状況※2	<p>■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー CTCシステムマネジメント株式会社 株式会社ネットサービス・ソリューションズ</p> <p>■就職指導内容 担任と就職センター専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート書き方講座」「面接対策講座」等のセミナーや講座を実施</p> <p>■卒業者数 27 人 ■就職希望者数 24 人 ■就職者数 24 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88.9 % ■その他 ・進学者数: 1人 仙台工科専門学校 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)</p>			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>(2)</td> <td>24人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>(2)</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士試験</td> <td>(2)</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td> <td>(3)</td> <td>27人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 応用コースマネジメント試験</td> <td>(3)</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>CompTIA IT Fundamentals</td> <td>(3)</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>CompTIA Cloud Essentials</td> <td>(3)</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄</p>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	(2)	24人	6人	応用情報技術者試験	(2)	5人	2人	情報処理安全確保支援士試験	(2)	1人	1人	SEA/J 基礎コース試験	(3)	27人	8人	SEA/J 応用コースマネジメント試験	(3)	4人	3人	CompTIA IT Fundamentals	(3)	7人	6人	CompTIA Cloud Essentials	(3)	2人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																			
基本情報技術者試験	(2)	24人	6人																																			
応用情報技術者試験	(2)	5人	2人																																			
情報処理安全確保支援士試験	(2)	1人	1人																																			
SEA/J 基礎コース試験	(3)	27人	8人																																			
SEA/J 応用コースマネジメント試験	(3)	4人	3人																																			
CompTIA IT Fundamentals	(3)	7人	6人																																			
CompTIA Cloud Essentials	(3)	2人	2人																																			
中途退学の現状	<p>■中途退学者 3 名 ■中退率 4.3 %</p> <p>令和2年4月1日時点において、在学者70名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者67名(令和3年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 学業不振、病気</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座</p>																																					
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>																																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																					
当該学科のホームページURL	https://www.jc-21.ac.jp/course/ib/nw/																																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおきます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科の教育課程の編成においては、システム開発について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会(ネットワーク分野)」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を充分に生かした教育課程の編成に資する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、次の過程を経て教育課程を編成、決定する。

1. 本科教員により、教育課程について検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会(ネットワーク分野)」(年に2回以上開催)において、現行教育課程及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、新教育課程を決定する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
寺岡 隆伸	一般社団法人宮城県情報サービス産業協会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
村田 智則	リコージャパン株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
鈴木 茂実	リコージャパン株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
鈴木 宏明	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
種田 裕一	東北電子専門学校 教務部長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	
岩間 信喜	東北電子専門学校 教務主任	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	
竹村 健司	東北電子専門学校 学科主任	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	
伊藤 克也	東北電子専門学校 教務部	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催数: 年2回開催 開催時期: 毎年8月及び2月(予定)

(開催日時)

第1回 令和2年 10月29日 17:00～18:10

第2回 令和2年 12月17日 17:00～18:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

CCNA試験の試験範囲が令和2年2月から大幅に改定され、新たに「自動化とプログラマビリティ」の分野が追加された。この改定に伴い、現状のカリキュラムの見直しが必要になった為、教育課程編成委員会に意見を求め、現場における「自動化とプログラマビリティ」の現状を伝えて頂き、授業の進め方についてアドバイスを頂いた。そこで、今年度は、以下の内容を教育課程に反映させていく計画である。

・「プログラミング言語Ⅱ」運用の自動化をAPIで実現させる言語としてPythonを活用し、ネットワーク機器を管理する実習を予定。

・「ルータ構築Ⅰ」ネットワークの基礎知識を固めてからCCNAコースを行うように、CCNA前提コースを活用する予定。

・「ルータ構築Ⅱ」ネットワーク機器を集中管理するコントローラを活用する実習を予定。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な能力を育成するために、企業等と組織的な連携を取った実習が重要と考えている。

連携するにあたっては、知識・技術の学修に加えて、実務を遂行するに必要なヒューマンスキルや仕事に対する意識・姿勢への「気づき」を得ることも重視する。また、企業の選定にあたっては、実践的なアドバイスを受けて必要なスキルが修得できるよう、現役のインフラエンジニアを派遣でき、企業の指定施設で実習・演習の指導ができる企業を選定する

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

リコージャパン株式会社と取り交わした「職業教育協定書」(以下、協定書)に基づいて「ルータ構築Ⅱ」の授業科目を連携し実施する。具体的には、協定書別紙に記載している以下の内容を企業と連携し実施する。

ネットワークエンジニアとして必要なネットワーク設計・構築・保守・監視等の知識・技術について学びながら、実際に現場で行われているネットワーク構築における事前作業、実施作業、確認作業等の技能を修得することを目的として、企業の第一線で活躍しているインフラエンジニアの講師の指導の下、実践的な実習・演習を行う。

ネットワーク構築に関する科目「ルータ構築Ⅱ」の担当教員と企業の講師が実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、生徒の学修成果の達成度評価指標等について定める。実習開始前に、担当教員が実習以前の授業で指導した知識・技術の説明を行う。その後、企業等の講師が専門性の高い技術的な指導後、実習としてネットワークの要求仕様書を元に、企業側の講師が、生徒に対しネットワーク構築の指示を行う。さらに、要求仕様書に対し生徒が構築したネットワークを評価し、生徒の学修成果の到達度を把握する。

実習修了時には、企業等の講師による生徒の学修成果の評価を行う。その後の授業においては、学習するテーマが実務でなぜ必要となるかを、実習時の振り返りを行いながら説明していく。期末には、企業等の講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ルータ構築Ⅱ	CCNA取得に必要な小～中規模ネットワークを構築するための考え方やルータ、スイッチの操作方法の修得を目的として、企業の第一線で活躍しているエンジニアの講師の指導の下、実践的な実習・演習を行う。	リコージャパン株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、教員に対する研修の必要性を把握し、その必要性に応じて研修計画を策定し、計画に基づいて研修を実施する。その内容として、専攻分野の実務に関する知識や技術及び授業や生徒に対する指導力等を修得させ、教員の能力及び資質等の向上を図る。必要な場合は、他の機関や企業等と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことがある。
これらについては、「学校法人日本コンピュータ学園 教員研修規定」に定めており、この規定に基づいて研修を実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「ネットワーキングアカデミー・インストラクターズミーティング2020」に関する研修

内容: ネットワークプログラマビリティのトレンドとこれからのネットワークエンジニアに求められるスキルを理解する研修。

連携: Cisco Networking Academy(Cisco Systemsが提供しているインターネット技術者を育成するための教育プログラム)のポリシーマニュアルにもとづき、Cisco ContactおよびNetAcad Instructorを対象として実施する必須研修である。

対象: 学科教員

日時: 令和2年8月18日(火)17:30-21:10

講師: 「ネットワーキングアカデミー・インストラクターズミーティング 2020」で招聘された講師陣。

② 指導力の修得・向上のための研修等

「外国人留学生の日本での就労」に関する研修

内容: 留学生の就労ビザに関する知識の習得及び新しい在留資格である特定技能1号・2号に関する基礎事項を理解する研修。

連携: 連携企業から、「今後はグローバル化に対応するため外国人留学生を採用する企業が増加する。しかし、外国人雇用に関する経験も知識もない企業は採用をためらっている。専門学校に通う外国人留学生の日本での就労機会を増やすためにも、学校から企業に対して採用に関する情報提供を行うよい。」との助言にもとづき、東北電子専門学校が企画し全教員を対象として実施した研修。

対象: 全教員

日時: 令和2年8月18日(火)10:30-12:00

講師: LAM(ライフ・アテンドみやぎ)登録行政書士 橋元 修一 氏、高瀬 幸雄 氏

「発達障害の理解と対応」～事例を通して考える～

内容: 「発達障害」を正しく理解し、ASD、ADHD、LD等それぞれのケースに応じた対応を事例を通して学ぶ研修

連携: 宮城県専修学校各種学校連合会等の企画・主催の中堅教員に対する研修

対象: 代表教員4名が受講し、受講後は全教員を4グループに分け報告研修を行い研修内容の周知を図った

日時: 令和2年12月4日(金) 13:30~16:30

講師: 仙台市健康福祉局 万部発達相談支援センター 内藤 寿子 氏

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「ネットワーキングアカデミー・インストラクターズミーティング2021」に関する研修

内容: シスコネットワーキングアカデミープログラムの今後、特定の通信技術・プロトコルの教授方法、インターネットを取り巻く新しい技術、実機・シミュレータを用いたハンズオントレーニング、就職活動を取り巻く状況・企業からの声等、次なる変化を見据えた講演等で、実際的な教育のための知見共有を進め、今後の授業計画に活かすことを目的として行う研修である。

連携: Cisco Networking Academy(Cisco Systemsが提供しているインターネット技術者を育成するための教育プログラム)のポリシーマニュアルにもとづき、Cisco ContactおよびNetAcad Instructorを対象として実施する必須研修である。

対象: 学科教員

日時: 令和3年8月(予定)

講師: 「ネットワーキングアカデミー・インストラクターズミーティング 2021」で招聘された講師陣が担当する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

「遠隔授業」に関する研修

内容: 新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として昨年度行った遠隔授業は、各教員が試行錯誤を繰り返しながら実施してきた。この研修では、遠隔授業の効果的な授業方法や注意点について学ぶとともに、これまで各教員が身に着けてきた遠隔授業に関するノウハウを共有する。

連携: 連携企業から、「コロナ禍におけるリモートワークはある程度の効果がでている。コロナの感染拡大をきっかけに、今後の働き方は大きく変わっていくと思われる。学生のうちからオンラインによる会議やディスカッションに慣れておくことで、入社後の業務を円滑に進められるようになる。学校には効果的な遠隔授業の実施について研究していただきたい。」との助言にもとづき、東北電子専門学校が企画し全教員を対象として実施する研修。

対象: 全教員

日時: 令和3年8月(予定)

講師: 連携企業の講師を予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び職業実践専門課程として推薦する学科(以下、「当該学科」という)の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(以下、「委員会」という)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。

委員会は、学校の重点目標、計画、自己評価等について評価し、特に当該学科については、その教育目標、育成人材像、教育課程の編成、キャリア教育、資格取得の指導体制等について重点的に評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめ、広く公表する。

学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の継続的な改善を行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目的	a. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) b. 学校における職業教育の特色を示しているか c. 社会経渉のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか d. 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか e. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか b. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか c. 運営組織や意志決定機能は、明確化され、有効に機能しているか d. 人事、給与に関する制度は整備されているか e. 各部門の組織整備など意志決定システムは整備されているか f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか g. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか e. 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか f. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか g. 企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか h. 授業評価の実施・評価体制はあるか i. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか j. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか k. 必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか l. 関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか m. 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	a. 就職率の向上が図られているか b. 資格取得率の向上が図られているか c. 退学率の低減が図られているか d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか b. 学生相談に関する体制は整備されているか c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか f. 学生の生活環境への支援は行われているか g. 保護者と適切に連携しているか h. 卒業生への支援体制はあるか i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか j. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか b. 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか c. 学生が自主的に学修するための環境が整備されているか d. 防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	a. 学生募集活動は、適正に行われているか b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか c. 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか c. 財務について会計監査が適正に行われているか d. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか b. 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか d. 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか b. 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか c. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか c. 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか d. 学内で適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員より「新型感染症拡大をきっかけとして大学等で行っている遠隔授業は、一定の教育効果があるとされていることから、東北電子が保有する施設・設備・教育環境やこれまで培ってきたノウハウを生かし、本格的にオンライン授業に取り組んではいかがか」との意見を受け、令和3年度より「双方向遠隔と録画配信を併用したオンライン授業」を全授業の約2割程度実施することとした。地震、台風、大雪等、大規模な自然災害や、感染爆発による緊急時の措置として行う全科目オンライン授業にも即座に対応し、計画したカリキュラムを予定通り進めるうえで、継続的にオンライン授業を実施することを目指す。また、従来実施している「録画授業配信システム(授業オンデマンド:講義科目を録画し、復習や資格試験勉強のために活用する)」と双方向遠隔授業、クラウド環境を活用した課題提出等、様々な形式の授業の組み合わせによるハイブリッド、ブレンディッド型での授業等、新しい教育方法に積極的に取り組むことで、学生の授業への参加意識を高め、資格合格率や就職実績の向上につなげる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
相原 明子	株式会社 ミヤギテレビサービス	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
岩沢 正樹	宮城県産業技術総合センター	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	企業等委員
川島 健太郎	株式会社 ヒノタマ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
菊田 正信	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
岸浪 行雄	株式会社 東北共立	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 浩之	株式会社 アルゴグラフィックス	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 富士夫	宮城県電気工事工業組合	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界団体
シクダル・サビット・セリム	株式会社 ARCA	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
庄司 直人	株式会社 リード・サイン	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
千葉 清純	一般社団法人 宮城県建築士事務所協会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界団体
角田 透	株式会社 JC-21教育センター	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
徳政 隆史	リコージャパン 株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
西村 宜起	東北芸術工科大学	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	有識者
本宮 真仁	株式会社 メンバーズ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公開方法:ホームページで公開 URL:<https://www.jc-21.ac.jp/report/hyoka/>

公表時期:毎年7月中旬に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、学校教育法、私立学校法で定められた目的を実現するための教育機関として、教育活動の活性化や学校運営の円滑化を図るとともに、企業等との繋がりを強め、連携推進に資するために情報公開を行う。

提供する情報は、学生及び保護者、入学希望者、企業関係者等に対して、学校の教育目標・教育活動の実績・キャリア教育等の教育基礎情報を始め、学校評価等の学校全体の状況に関する事ととする。

なお、提供に当たっては、個人情報の取扱いに留意するとともに公正な情報の表示に努めるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	設置者名、学校名、所在地、連絡先、理事長名、校長名、教職員数、学生数、教育理念、事業計画、学校の特色、沿革
(2)各学科等の教育	修業年限、募集定員、学科案内(学科の特色、取得を目指す資格、職種、学びのステップ)、カリキュラム、入学者数、資格取得実績、卒業者の進路
(3)教職員	教職員数、教員組織・担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職支援プログラム、各種連携・連携教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動、教育施設・設備(校舎概要、主な施設・設備の特色、主な実習設備、その他施設・設備)
(6)学生の生活支援	学生支援体制、学生寮
(7)学生納付金・修学支援	初年度学費一覧、入学手続金の分割納入について、授業料等の分割納入について、学費サポート制度(特別奨学金制度、試験特待生制度、資格特待生制度、親族入学優遇制度、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、新聞奨学生制度、教育ローン)
(8)学校の財務	財務情報(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)
(9)学校評価	学校評価、自己評価、学校関係者評価、職業実践専門課程の基本情報
(10)国際連携の状況	留学生対象学科:国際ビジネス科の特徴、取得を目指す資格
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、卒業制作展等学校・学科が主催するイベントで情報提供

<https://www.jc-21.ac.jp/report/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 サイバーセキュリティ科(旧ネットワークセキュリティ科)) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			就職対策 I	一般常識や適性試験対策を中心に学習します。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学びます。また会社訪問のしかたや面接はビジュアル教材を使い、実践トレーニングを行います。	1通	57			○			○		○		
○			ハードウェア概論	コンピュータの動作原理やデータ表現・情報の基礎理論・ハードウェアの基礎理論・インターフェース・技術動向などを学びます。	1通	171			○			○	○			
○			ネットワーク技術基礎	ネットワークの役割や基礎知識、ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学びます。	1通	85.5			○			○	○			
○			データベース技術基礎	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・障害対策・SQL・AIとビッグデータの関連などの基礎知識を学びます。	1通	85.5			○			○	○			
○			アルゴリズム	プログラムの処理手順を表現する流れ図の書き方を学び、論理的思考能力やトーレス能力の向上を図ります。基本情報技術者試験で出題される擬似言語やデータ構造についても学びます。	1通	114			○			○	○			
○			プログラミング言語 I	基本情報技術者試験対策としてプログラミング言語を学び基本的なアルゴリズムがどのように実装されるかを学習します。	1通	142.5			○		△	○	○			
○			システム開発概論	システム開発の工程や各工程での作業内容、システム開発技法、各種設計書（ドキュメント）、テスト技法に関する基礎知識と、OSの機能概要やソフトウェアに関する基礎知識を学びます。	1通	142.5			○			○	○			
○			情報化の基礎	経営戦略・企業関連法規・経営科学・プロジェクトマネジメント・システム監査など、企業活動に必要な基礎知識を幅広く学びます。	1通	114			○			○	○			
○			情報リテラシー	パソコンの基本操作からOfficeソフトの活用方法、ネット社会におけるモラルやセキュリティについて学びます。	1前	57			○		○	△	○			

○		AI概論	人工知能（AI）について、概要・歴史などの基礎知識について学びます。また、機械学習やディープラーニングの概要・人工知能の応用範囲などについて、最新の技術動向も踏まえて学習します。	1 後	57		○	○	○
○		ルータ構築 I	CCNA取得に必要な小～中規模ネットワークを構築するための考え方やルータ、スイッチの概要について学びます。	1 後	114		△	○	○
○		就職対策 II	一般常識や適性試験対策学習を継続しながら、エントリーシートや履歴書を完成させ、就職活動の準備を整えます。	2 通	57	○	○		○
○		社会人基礎力	社会人として自立するために必要な「前に踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」を学びます。	2 通	57	○	○	○	○
○		Linux	Linuxサーバの運用管理、各種サーバの設定方法について学びます。	2 通	171		△	○	○
○		ルータ構築 II	CCNA資格取得に必要な中規模ネットワークのネットワークの導入、設定、運用、トラブルシューティングに関する知識とスキルについて学びます。	2 通	285		△	○	○
○		情報セキュリティ I	SEA/Jアカデミーカリキュラムを使用し、セキュリティ基礎を学びます。	2 前	57	○	○	○	
○		プログラミング言語 II	Pythonの特徴を知り、Pythonの基本文法から関数の利用までの基礎分野を習得します。	2 通	114		△	○	○
○		情報セキュリティ II	「SEA/J認定試験」に対応したSEA/Jアカデミーカリキュラムを使用し、情報セキュリティマネジメント・リスク分析の考え方や、情報セキュリティポリシー策定の基本、対策計画を立てるために必要な知識を学びます。	2 後	57	○	○	○	
○		サイバーセキュリティ	DNS、メール、WEB等に代表されるアプリケーションプロトコルの脆弱性・脅威に対するアプリケーション対策やAIによるサイバー攻撃対策について学びます。	2 通	114		△	○	○
○		就職対策 III	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就職活動のトレーニングを行います。	3 前	57	○	△	○	○
○		情報セキュリティ III	SEA/Jアカデミーカリキュラムを使用し、ネットワークセキュリティの構築・運用を学びます。	3 前	114		△	○	○
○		プラットフォームセキュリティ	セキュリティオペレーションセンター（SOC）で必要となるサイバー攻撃の分析技法や対応方法を学びます。	3 前	114		△	○	○

○	プロジェクト管理	サイバーセキュリティ科主催イベントの「サイバーセキュリティコンテスト」の企画を通じて、ドキュメントの作成手法、ネットワークやサーバの検証やトラブル対応手順を学びます。	3 前	171		△	○	○	○	○
○	クラウドコンピューティング	クラウド環境の構築（サーバ、ストレージ、ネットワークの仮想化）と認証技術（無線、アカウント管理の連携）の検証およびクラウドセキュリティに関する設定を行い、クラウド環境のトラブル対応を学びます。	3 後	114		△	○	○	○	
○	インシデントレスポンス	セキュリティインシデントに対する「事前対応」と「事後対応」の流れを理解し、CSIRT要員としてインシデントレスポンスの対応手順を学びます。	3 後	114		△	○	○	○	
○	プレゼンテーション技術	プレゼンテーション技法を学びます。また、パワーポイント等の資料作成ツールの操作を学びます。	3 後	57		△	○	○	○	
○	卒業研究	各自がITインフラに関わるネットワーク、サーバ、ストレージ、セキュリティ、仮想化、AI、IoTに関する研究目標を設定し、研究環境を構築し、検証を行い、まとめとして成果発表を行います。	3 後	171		△	○	○	○	○
○	情報セキュリティマネジメント試験対策ⅡA	対策クラスを編成し、情報セキュリティマネジメント試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2 前	57	○		○	○	○	○
○	基本情報技術者試験対策ⅡA	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2 前	57	○		○	○	○	○
○	応用情報技術者試験対策ⅡA	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2 前	57	○		○	○	○	○
○	高度情報技術者試験対策ⅡA	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2 前	57	○		○	○	○	○
○	情報セキュリティマネジメント試験対策ⅡB	対策クラスを編成し、情報セキュリティマネジメント試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2 後	57	○		○	○	○	○
○	基本情報技術者試験対策ⅡB	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2 後	57	○		○	○	○	○

	○	応用情報技術者試験対策ⅡB	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○		○	○	○	
	○	高度情報技術者試験対策ⅡB	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	2後	57		○		○	○	○	
	○	情報セキュリティマネジメント試験対策ⅢA	対策クラスを編成し、情報セキュリティマネジメント試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○		○	○	○	
	○	基本情報技術者試験対策ⅢA	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○		○	○	○	
	○	応用情報技術者試験対策ⅢA	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○		○	○	○	
	○	高度情報技術者試験対策ⅢA	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3前	57		○		○	○	○	
	○	情報セキュリティマネジメント試験対策ⅢB	対策クラスを編成し、情報セキュリティマネジメント試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○		○	○	○	
	○	基本情報技術者試験対策ⅢB	対策クラスを編成し、基本情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○		○	○	○	
	○	応用情報技術者試験対策ⅢB	対策クラスを編成し、応用情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○		○	○	○	
	○	高度情報技術者試験対策ⅢB	対策クラスを試験区分ごとに編成し、高度情報技術者試験の範囲を学習します。対策期間中に適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行います。	3後	57		○		○	○	○	
	○	ボランティア活動	校内外におけるボランティア活動を行います。	1後 2後 3後	28.5		△		○	○	○	

		○ CGアプリケーション入門	3次元CGの初步的な制作方法を実習します。	1 後 2 後 3 後	28.5		△	○ ○		○
		○ 英会話基礎	日常英会話の基礎を学びます。	1 後 2 後 3 後	28.5		○	○		○
		○ コミュニケーションスキル講座	円滑な対人関係、組織の活性化、および、良いコミュニケーションに必要な「話す」「聞く」といった知識と能力を身に着ける。	1 後 2 後 3 後	28.5		△	○ ○		○
		○ 就職作文対策	就職試験で出題されることが多い作文について、基礎的な書き方やコツなどについて学びます。	1 後 2 後 3 後	28.5		○	○		○
		○ 経営とビジネス	技術者にも必要な会社における会計の基本と経営との関係について学びます。	1 後 2 後 3 後	28.5		○	○		○
		○ 実践カラーコーディネート	配色調和、色彩心理などカラーコーディネートの知識を基に、対象別の実践的配色技法を習得します。	1 後 2 後 3 後	28.5		○	△ ○		○
合計		30科目			3192単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間で800時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。